

指定校番号	30007	学級活動	○ 児童会活動	クラブ活動	学校行事
-------	-------	------	---------	-------	------

平成30年度生徒指導集中対策及び生徒指導実践指定校「特別活動の取組事例」

学校名	廿日市市立平良小学校	校長	谷本 直子	生徒指導主事	中本 智和
-----	------------	----	-------	--------	-------

取組事例名 『児童が主体となった委員会活動を仕組み、自己有用感を育てる』

取組における育てたい資質・能力

人間関係形成		社会参画		自己実現	
「課題発見・解決力」	1	「主体性」	3	「自己有用感」	2

取組のねらい『キーワード 児童が主役になる委員会活動で自己有用感を育てる』

各委員会の児童が学校の課題を見付け、それを改善するためのアイデアを出し合い、取組を進めた。児童が主体的に企画運営し、学校や他の児童のためになるような取組の場を設定することで児童の主体性や課題発見・解決力を育みたい。また、児童同士で評価をし合いながら自己有用感を高めたい。

取組の具体的内容『キーワード 児童が考え実践する委員会活動を通してよりよい平良小学校に』

各委員会活動の取組から2つの例を紹介する。

児童運営委員会「トイレのスリッパを揃える取組」

校内の全部のトイレのスリッパがそろい、次の人が使いやすいように考えて行動できる平良っ子になるために、自分達ができることはないかと知恵を絞り行動に移した。スリッパが揃っているかどうか見張るのではなく、トイレから出てくるときに揃えよう！と思えるような言葉を選び、揃えてくれた人に思いを寄せスリッパにメッセージを付けたことが、トイレのスリッパが揃うきっかけにつながった。

「そろったね」「ありがとう」
「うれしいな」などのメッセージ



保健委員会「立腰を進める取組」

どうしたら全校児童の姿勢がよくなるのか、姿勢がよくなるとどんないいことがあるのか児童が中心になって調べた。「字をきれいに書ける。音読の声が大きくなる。背中が鍛えられて疲れが少なくなるので、運動や勉強によい。集中力がアップする。成長にもよい影響がある。」等の事実を掴んだ。さらに、全校児童はどのくらいできているのか実態把握をした。全校児童が立腰を意識できるようにするためには、どんな発表をすると分かりやすいか考え、話し合い、朝会で全校児童に向けて発表した。



他の委員会も同様に、各役割を踏まえた取組を主体的に考え、進めている。

取組の課題・創意工夫『キーワード 児童のアイデアを生かした取組で学校の課題を解決』

【取組の課題】

- ・昨年度までは、委員会活動がどちらかというと教員主導になっていた。児童が主体となって動く経験があまりなかった。そのため、活動が軌道に乗るまでは時間を要した。
- ・児童が主体的に活動に取り組んだ点は良かったが、十分な活動時間を確保することができなかった。休憩時間を使って活動することが多かったため、次年度の計画に役立てたい。

【創意工夫】

- ・委員会の取組を校内に掲示することで、各委員会が取り組んでいることを視覚化し、再認識することができた。下学年の児童は自分たちが何を頑張ればいいのか視覚的にも理解できた。学校教育目標から今年度の重点的な取組、各委員会活動のテーマがつながっていることが分かるように掲示することで、自分たちの取組が学校教育目標を達成するための力になっていることを意識させた。
- ・児童が主体となって、平良小学校をよりよくするためのアイデアを出し委員会活動を進めた。
 - 児童運営委員会 → トイレのスリッパをそろえて出てくれた人に向けて、「そろったね」「ありがとう」「うれしいな」「よろしくね」などのメッセージをスリッパに貼った。左右両方のスリッパを揃え、つなげて読むと、メッセージになるように児童が考え、工夫した。
 - 保健委員会 → 児童のアイデアで「月曜立腰がんばるデー」というキャッチコピーをつくり、月曜日は特に意識してもらえるように放送や掲示をした。「立腰の花を咲かせよう」の掲示物を作り、できていたらシールを貼ることで取組の成果を視覚的にもよく分かるように工夫した。

取組の成果（効果）『キーワード 自己有用感アップ!』

学校評価児童アンケート「委員会活動やふだんの生活の中で人のためになることを進んで行っています」

【5, 6年生児童アンケート結果】 前期 89% → 後期 92%

- ・アンケート結果のように、前期と比べ、「人のためになることを進んで行っている」と答えた児童が3%増えた。取組の成果が出るにつれ、さらに意欲的に取り組む姿が見られ、児童の意識も高まった。
- ・委員会活動で様々な企画を考え、実行している高学年の姿を下学年の児童はしっかり見て学び取り、学級での生活をよりよいものにしていくための工夫を考え、実行することができた。具体例を紹介する。平良っ子ふれあいフェスティバルで、各委員会が全校児童に楽しんでもらいながら平良小を良くするためのコーナーをそれぞれ設けた。その様子から、2年生の児童が学び、生活科のおもちゃランドで、みんなに楽しんでもらうためには何が必要か企画し、高学年が委員会コーナーでやったことを手本にしながら実践し、成功につながった。



今後の展開『キーワード お互いに評価し合う・学級でも取組を進める』

- ・お互いの活動を評価し合ったり、下学年の児童から感謝の気持ちを表すメッセージをもらったりすることで、さらに自己有用感を高められるようにする。
- ・各委員会が取り組んだ姿を見て、現在、各学級でも自分たちの学級の課題を出し、児童のアイデアを生かして解決する取組を進めている。



他教科との関わり『キーワード 課題発見解決学習』

今年度、各委員会が取り組んだ活動の流れは課題発見解決学習といえる。その取組は、特別活動での各学級の目標に対する課題解決につながり、自分たちの生活改善に結び付けられている。この取組を現在、各教科等の学習で推進している課題発見・解決学習と連動して行うことで、学習面・生活面双方での児童の主体性が育まれていると考えている。